

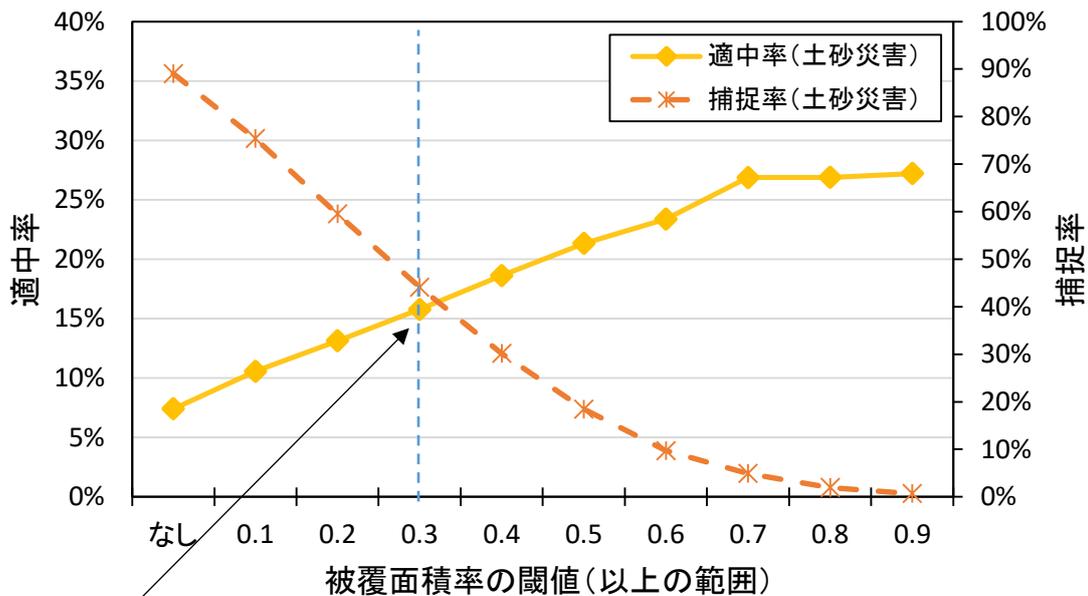
資料2 素因の被覆面積率と災害事象の整理図

以下に災害事象別の地形・地質素因の被覆面積率と適中率と捕捉率の整理図を示す。

A2.1 災害事象別の素因の被覆面積率と適中率及び捕捉率の整理図の説明

資料1の手法により、地形・地質の素因情報として、「土砂災害警戒区域」・「深層崩壊推定頻度マップ」・「地すべり地形分布図」の主題図における標準地域メッシュの3次メッシュ毎に被覆面積率を算出した。これらの素因と土砂災害との関係を整理するため、素因の被覆面積率に閾値を設けた場合の災害種別ごとの適中率と捕捉率の変化を整理した。

ここで、対象とする災害履歴の情報は、本資料で使用した国土交通省砂防部局が所有する土砂災害の情報（土石流・がけ崩れ・地すべり）および大規模崩壊履歴である。作成したグラフは、横軸に素因の被覆面積率の閾値を示しており、縦軸にその閾値における土砂災害の適中率と捕捉率を示したものである（図 A2.1）。事象別の整理結果図を図 A2.2～図 A2.3 に示す。

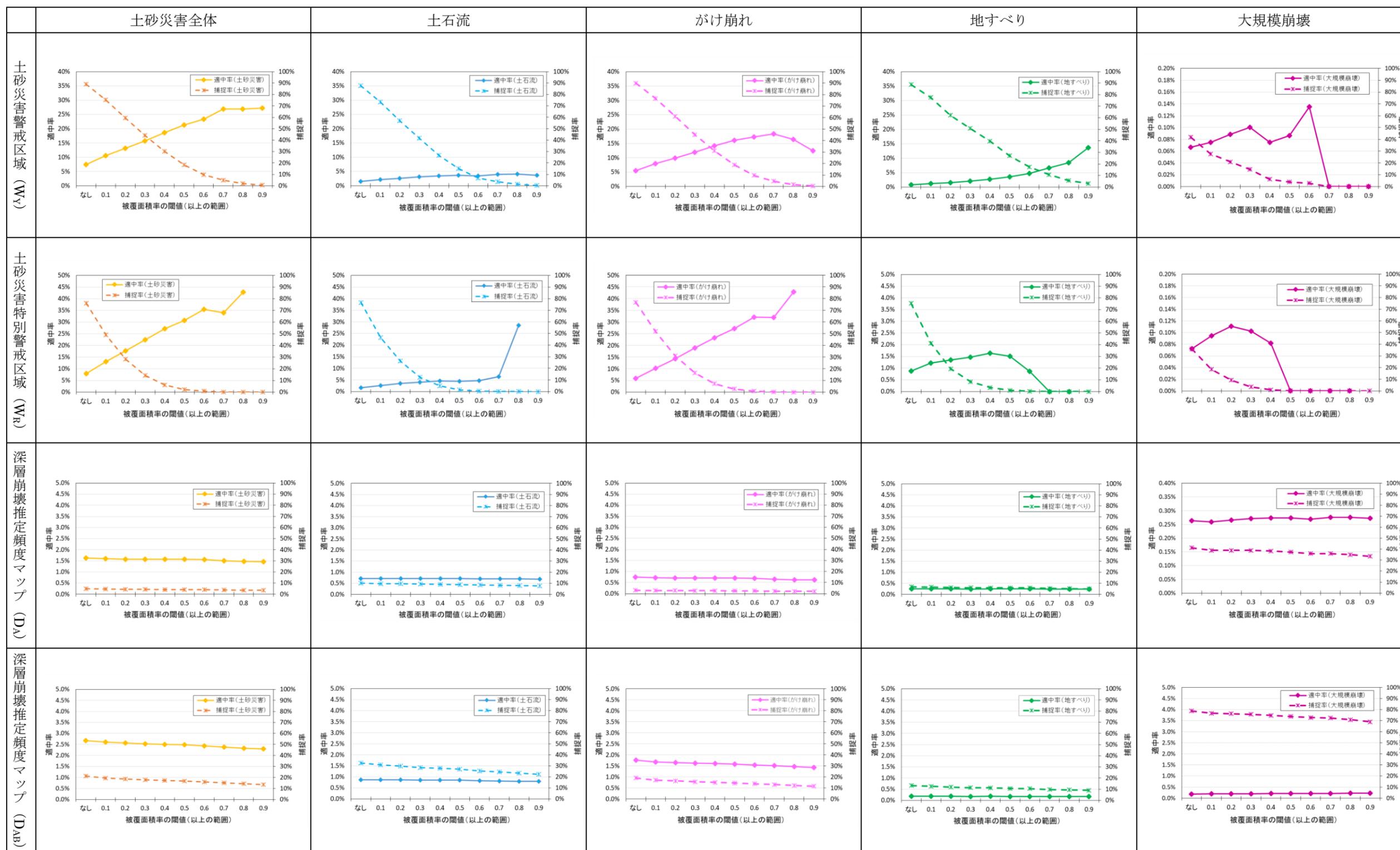


例) 被覆面積率の閾値 0.3 の場合

⇒被覆面積率 0.3 以上の 3 次メッシュを抽出した場合、災害の適中率 (15.8%) と捕捉率 (44.1%) を示している。

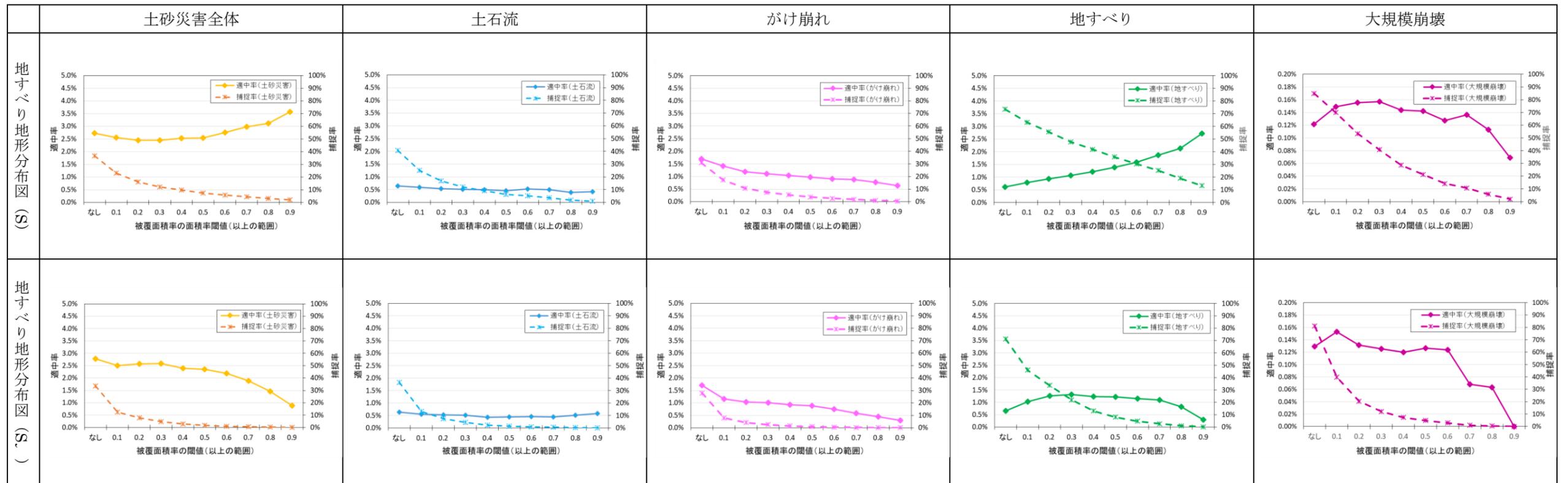
一般的に、被覆面積率の閾値の値を大きく (条件を厳しく) すれば、的率は増加するが捕捉率は減少する傾向を示す場合が多い。

図 A2.1 被覆面積率の閾値と適中率・捕捉率の整理図の概要



※土砂災害全体：土石流・がけ崩れ・地すべりの合計

図 A2.2 素因別・災害事象別の被覆面積率の閾値による土砂災害の適中率と捕捉率の整理結果図 (その1)



※土砂災害全体：土石流・がけ崩れ・地すべりの合計

図 A2.3 素因別・災害事象別の被覆面積率の閾値による土砂災害の適中率と捕捉率の整理結果図 (その2)